



都志見新聞

(医)医誠会都志見病院
http://tsushimi.jp

発行部数 500部
発行月 1, 4, 7, 10月
発行人 都志見病院
広報委員会

—シリーズ—

“がん”について知っておこう

緩和ケアってなあに? ～外来編～

少し秋っぽくなったかな? と思ってもまだまだ暑い日もありますね。みなさん体調はいかがでしょう? 季節柄どうかご自愛くださいね。

さて、7月から都志見新聞で「緩和ケア」を特集していますが、今回は外来編です。緩和ケアは、全国のがん診療連携拠点病院であればどこでも受けることができます。また、それ以外の病院で受けることも可能です。

通院での緩和ケアは、がんの治療のために通っている外来や、緩和ケア外来で受けることができます。

(1)がんの治療のために通っている外来

がんの治療のために通っている外来では、がんやがんの治療によるつらさを和らげるために、担当の医師や看護師から緩和ケアを受けます。

必要に応じて、他の専門職による支援を受けることもあります。

(2)緩和ケア外来

緩和ケア外来では緩和ケアの専門的な知識をもつ医師や看護師から緩和ケアを受けます。入院中に緩和ケアを受けていた場合には、退院後引き続き緩和ケア外来を受診することもあります。施設によっては緩和ケア外来がないところもありますが、その場合には、これまでに治療を受けたことがない緩和ケア外来を受診することも可能です。ご本人やご家族の希望によって受診することもできますので、担当の医師に相談してみましょう。

ちなみに都志見病院は「地域がん診療病院」で、がん診療チームを構成し診療部門、検査部門が密接に連携し、がん診療を行っています。

また、当院には緩和ケア外来もあります。毎週金曜日9時から診療を行っています。

担当医: 前田医師 緩和ケア認定看護師: 松本が外来診療を行っています。

「いきなり先生と話すのは緊張するな・・・」とか

「こんなこと言うのは変かな・・・」など

ハードルが高いと感じる患者さんやご家族もいらっしゃるかも・・・!? 安心してください!!

医師の診察前に看護師が患者さんやご家族の方と面談を行います。まずは、あなたとあなたのご家族の事を知りたいと思います。そして一緒に考えたいと思います。

あなたと、あなたのご家族にとって一番良い方法を見つけていきましょう。

次回は「緩和ケア 入院編」に続きます。



緩和ケア認定看護師 松本恵子

緩和ケア外来の様子

発熱症状のある患者さまへのお願い

感染拡大に歯止めがかからない新型コロナウイルス感染症、そして風邪やインフルエンザなどが流行する季節がやってきます。インフルエンザと新型コロナウイルス感染症はどちらも発熱症状や呼吸器疾患を引き起こしますが、症状のいくつかは似ているため、症状だけで判別することは困難で、判別するための検査が必要です。

発熱や風邪などの症状がある場合は、感染症拡大を防ぐためにも、自分で判断せず、かかりつけ医などに電話で相談し、受診をお願いします。



**発熱等の症状のある方は、まずは
かかりつけ医などに電話でご相談ください。**
(・発熱 ・息苦しさ ・強い怠さ ・風邪のような症状)



**明らかに新型コロナウイルス感染症
が疑われる方や不安に思われている
方はこちら!!**

かかりつけ医
がある



・かかりつけ医がない
・どこに相談したら良い
か分からない



電話で相談

かかりつけの医療機関へ

- ・電話で相談し、医療機関の指示に従い受診してください。
- ・**マスク**を着用し、病院に着いたらスタッフの指示に従ってください。



対応可

診察・治療

対応不可・紹介



電話で相談



《いずれも24時間対応》

萩・阿武地域:相談窓口
・萩・阿武健康ダイヤル24
☎0120-506-322

山口県全域:相談窓口
・受診・相談センター
☎083-902-2510



対応できる医療機関などで診察・治療



山口県肺癌治療Seminar 2021

9月17日金曜日19時より、済生会山口総合病院 外科部長 神保充孝先生をお招きして、「当館における肺癌の薬物療法及び外科治療」と題し講演会を実施しました。県下全域において、感染拡大防止集中期間が延長されたため、参加人数を制限して『密』を避け、web参加も可能として行いました。

神保先生には、手術の術式や実施している化学療法(がん薬物療法)等について、実際の症例も提示され、詳しく話して頂きました。特に免疫チェックポイント阻害剤については、最近治療対象となる疾患が増え、同時に副作用に対する注意喚起が重要となっております。肺癌の薬物治療については、放射線療法と併用することで高い治療効果が期待できることや、現在化学療法の中心的薬剤となってきている分子標的治療薬は、高い治療効果と発生する有害事象の早期発見が重要で、これには治療に関わる他職種の連携がとても大切であることがよく理解できました。

当院では、呼吸器疾患を専門とする外科医師はおりませんが、消化器疾患を専門とする外科医師が多数在籍しております。当医療圏に住んでおられる方が、地域で治療継続できるよう専門の医師を潤沢に確保することは容易ではございません。しかしながら、「萩」で継続して出来る治療をこの医療圏内で実施できるよう、今後もこうした講演会を企画・実施し、現在実施を控えております出前講座の開催も継続していきたいと思っております。最後に、当日は台風の接近もあり、大変な状況にも関わらずお越し頂いた神保先生、webにてご参加頂いた医療機関の皆様、開催に当たり準備からご協力下さった日本イーライリリー株式会社の皆様、大変ありがとうございました。

済生会山口総合病院
外科部長 神保充孝 先生

薬剤部長 玉一寛之

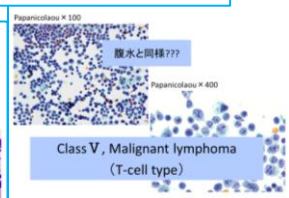
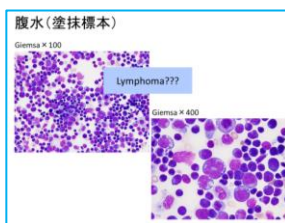
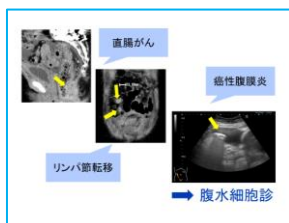


学会発表！

第101回山口県臨床細胞学会学術集会(オンライン開催)
症例報告「腹水細胞診を契機に発見した^(注1)ATL」



臨床検査技師・細胞検査士
大峠 ふくみ



細胞診とは、人体から細胞を採取して標本作製し、その細胞像を顕微鏡で観察して良性／悪性の判断などを行う検査です。発表した症例は、臨床症状からは予測しなかった疾患を細胞診にて発見し得た貴重な症例であり、細胞診の有用性をアピールすることができました。

(注1) ATL(成人T細胞白血病リンパ腫)とは、白血球の中のT細胞にHTLV-1ウイルスが感染し、がん化したことにより発症する血液のがんです。



医療安全全体研修を行いました！

～身につけておきたい医療現場の個人情報保護と情報リテラシー～

個人情報の取り扱いについて、医療従事者として必要な個人情報保護法の基本的な知識から、昨今WebやSNSと言った情報化社会で生じる不注意による情報漏えい問題などを取り上げ、個人の情報リテラシーを高める内容の研修を行いました。





医療職のたまご から未来へ

「看護職のたまご 1日ナース体験を引き受けました！」

2021年7～8月の暑い夏休みの間に、中学校(4校)、高校(1校)の1日ナース体験(山口県看護協会委託事業)を引き受けました。計6名の学生さんが参加されました。

令和3年度はコロナ禍での開催でしたが、参加者には実習2週間前から行動制限・健康チェックを行っていただき、どうにか無事に終了できました。1日の実習でしたが、学生さんは見るもの、行うものが初めての経験であり目を輝かせて多くの学びをされました。

将来の職業として医療職に就きたいという人が年々増えています。この職場体験で医療職を理解してもらい、萩の地域医療を担う「金のたまご」になる機会になればと思います。見学に協力いただいた部署の皆さんありがとうございました。

この行事は毎年恒例で行われますが、コロナ禍では開催も危ぶまれます。来年も、皆さんのご家族やご近所の方で医療職に興味のある方がおられましたら、是非ともご紹介ください！！



ベッド
メイキング



車イス
体験



配茶



ストレッチャー
移動



ギャッジ
アップ



看護研究院内発表会

地域包括ケア病棟からできる 服薬支援の検討

～地域の訪問看護師・ケアマネジャーへの

実態調査より～



東3階 横山峰子
鬼村幸子 山田啓子



CVポート留置患者に
統一した自己管理指導を行う
～パンフレットを作成して～

都志見病院 6階病棟
松中理沙 蔵増亜貴子
寺山美絵 石津美帆

6月29日、7階会議室で開催！
東3階病棟・6階病棟・透析室
がそれぞれの取り組みを発表
しました。

下肢末梢動脈疾患(PAD)リスク評価 ～2017年と2019年・2020年の集計と比較～

2021.6.29 透析室
○今本夏都希、伊藤裕二、
松浦由美子



「都志見Spirit」

部署紹介



事務部

事務部は現在、常勤職員33名・非常勤職員4名の合計37名が勤務しており、平均年齢は46.3歳です。

まず初めに、事務部に属している部署をご紹介します。

受付・会計・診療報酬請求業務と医療情報管理等を担当する医事課、当院の医療実績や患者さんの診療情報等を厳格に管理する診療情報管理室、施設・文書管理、職員の給与計算や福利厚生等を担当する総務課、予算や実績・金銭出納等を管理する経理課、資器材の購入や物品管理を担当する用度課、医師の事務補助や資料作成・スケジュール管理等を行う秘書課、病院内のシステムを管理するシステム課の合計7つの部署で事務部は構成されています。

次に、事務部の重要な役割として位置付けている業務についてご説明します。その一つは、患者さんや職員に快適な環境を整備することです。患者さんにとっての環境は、病院の設備や医療機器の充実、患者さんに対する職員の接遇や医療提供体制、職員にとっての環境は処遇や福利厚生面、職場の働きやすさ等が挙げられます。続いて重要な役割は、院内外の調整役となることです。そのため、事務部においては置かれた状況に臨機応変に対応する高いコミュニケーション能力が求められます。患者さんをはじめ、ご家族、関係医療機関、院内の各部署、取引先や官公庁等との間で様々な調整を行い、問題を解決していかなければなりません。

これらの役割を実現するために、事務部では部内や他部署との関係において、常に自ら進んで相談や交渉ができ、問題意識と責任感(もし自分が部署の責任者であったら、どのような判断をし、どのような行動をとるか)を持って業務に積極的に取り組む人材を育てていく方針です。事務部の職員は個々のスキルアップの一環として、社会人として必要な接遇・ビジネスマナー、公的文書の作成方法や語彙力等の一般教養を身に着けるため、事務部内の研修会に自発的に参加しています。また、診療情報管理士の資格取得等、各々が目標を設定し、日々努力を重ねています。

これからも、患者さんや職員をしっかりとサポートできますよう、快適な環境作りと院内外の調整役としてのスキルアップに努めてまいります。



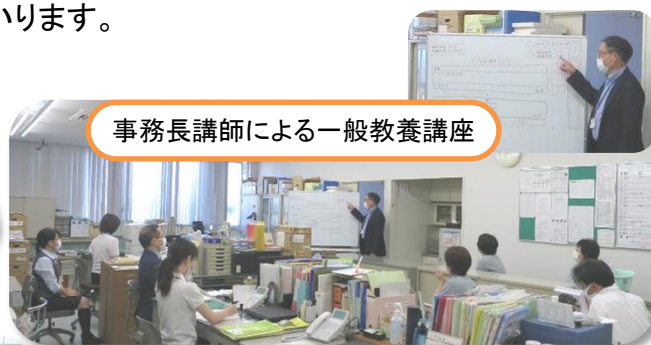
副院長・事務長
嶋崎 隆郎



電話交換



医師の
スケジュール管理



事務長講師による一般教養講座



医事課・関係部署によるレセプト委員会



エアコンのメンテナンス



医療資材の払い出し



患者サロン“だいたい”からの氷枕カバーの寄贈



患者サロン“だいたい”の皆さんがボランティアで氷枕カバーを作ってくださっています。平成28年より、毎年、30枚近い物をいただいております。入院患者さんが発熱や冷罨法が必要な場合に使用する氷枕のカバーは、だいたいの皆さんのおかげで毎年新しくなり、気持ちよく利用させていただいております。

コロナ禍により、院内での作製がままならない中、地域でだいたいの皆さんが集まり作製してくださることは本当に有難く、感謝致します。また、コロナ禍で人と人が近寄りづらい状況の中、だいたいの皆さんの温かいお気持ちをいただき、殺伐としていた気持ちが明るくなりました。このようなご縁に感謝し、これからもだいたいの皆さんと一緒に、患者さんのために活動が続けていきたいと思っております。

だいたいの皆さんこれからも宜しくお願い致します。

看護部一同

リレー・フォー・ライフ・ジャパン 2021やまぐち

「リレー・フォー・ライフ・ジャパン(RFLJ)」はがん患者さんやそのご家族を支援し、地域全体でがんと向き合って「がん征圧」を目指し、1年を通じて取り組むチャリティ活動です。1985年1人の医師がトラックで24時間走り続けアメリカのがん患者さんに寄付を行いました。このイベントは世界に広がり、30カ国、約4500カ所で開催されています。

日本でも、2015年からこの活動の輪ができ、当院も「地域がん診療病院」として初回から関わりを持たせていただいております。2021年度の開催はコロナ禍の影響もあり、関係者のみでの実施となりましたので、当院は「ルミナリエバック」で参加を致しました。

ルミナリエバックにはメッセージや絵・漫画等、好きな内容をバックに記載します。夜間、そのルミナリエにキャンドルを灯して、がんでお亡くなりになられた患者さん、今もがんと闘い続けている方へエールを送ります。とても綺麗で崇高な「ルミナリエの灯」です！！来年はコロナ禍も落ち着き通常に開催できることを願うばかりです。



ルミナリエバックで参加!!

訪問看護ステーションつばき閉鎖のお知らせ



この度、「訪問看護ステーションつばき」は、令和3年9月末日をもちまして閉鎖することとなりました。

平成10年6月の事業開始以来、長年にわたり皆さまから賜りましたご支援とご厚情、そして、地域で事業を展開させていただきましたことに心より感謝申し上げます。

医療法人医誠会 訪問看護ステーションつばき 管理者 芦谷多美子



No.15

運動不足と認知症の関係②

最近、認知症と肥満の関係を説く研究結果がさかんに発表されていますが、単に肥満だけでなく、運動不足も大きな原因の一つであることが明らかになってきています。運動不足⇒肥満⇒脳の老化＋生活習慣病というシナリオがいわれておりますが、脳の老化がいきなりアルツハイマー性認知症を発症するわけではありません。**発症までの10年間の生活習慣が脳の老化の原因**と言われています。特に地方に住んでいる方は、車で移動される方が少なくありません。しかも、終日テレビやパソコンの前で座っていたり、農作業などで立ちっぱなし等の同じ姿勢の状態でご過ごされる方が多く、ほとんど体を動かしていないことになります。都心で生活する人たち以上に深刻な運動不足の方が多いのです。運動不足が慢性化すると余分な脂肪を溜め込むことになり、これが体の代謝を低下させ、血行障害を引き起こす原因となります。さらに放置すると肥満化が一気に進み、それと並行して血液がドロドロとなって血管が細くなってしまうため、血栓症、動脈硬化、心筋梗塞、糖尿病といった生活習慣病を引き起こします。



40代の運動不足が、60代以降の“脳の衰え”を一気に加速させると推察できる海外の報告があります。1970年代に参加した、当時平均で41歳の1,271名の被験者の脳を、あらためて1999年にMRIで調べてみたそうです。その結果、当時から運動不足だった人ほど、20年経ってみると脳のサイズが小さくなっていると分かったそうです。単に脳のサイズだけでなく、認知機能テストにおいても成績が劣ったといいます。このような報告からも、運動不足が脳に与えるリスクがあることは明らかです。**40代からの有酸素運動が必要とされていますが、今からでも遅くはないです！**体を動かす習慣を身につけませんか!?

